

今

回の「数字」を見て、政府の債務残高を思い浮かべた方もいるかもしれない。

政府（国）の債務残高は2013年6月末で1009兆円と、1000兆円を突破した。

今回着目する「数字」は、高齢者の保有する金融資産の残高だが、これは奇しくも政府の債務残高の水準とほぼ一致している。これがどういうことを意味するのか、考えてみよう。

政府の債務はいつまでも膨らませ続けることはできず、将来的には税収によって債務を減らしていく必要があるだろう。その負担を担うのは、主に若年世代（もしくはこれから生まれる世代、以下同じ）ということになる。このことが「世代間格差」としてしばしばクローズアップされている。

では、若年世代は皆、過去の世代が残した巨大な借金を背負って、重い税を支払わなければならない「かわいそつな人たち」かということ、必ずしもそうではない。

現在の高齢者世代は約1000兆円の金融資産を持っており、これらが若年世代に相続・贈与され

数字は語る

大和総研金融調査部
研究員
是枝俊悟

高齢者の巨額金融資産 世代間格差はいずれ 「世代内」の格差に

約1000兆円

高齢者が保有する金融資産

世帯主が60歳以上の世帯が保有する金融資産（金融負債を控除した純額）の推計値（2013年3月末時点）

ることが期待されるからである。仮に、高齢者世代が現在保有している約1000兆円の金融資産の全額が若年世代に相続・贈与されたとすると、若年世代はその遺産で将来の税負担をカバーすることができる。すなわち、マクロ的には若年世代の実質的な負担はほぼプラスマイナスゼロとなる。

ただし、若年世代内の個人々人を見ても、事情は異なる。自分の親や祖父母からの相続・贈与額は、人によって大きな格差が出てくるからだ。

その一方で、所得税や消費税、社会保険料などは、個人々人が親や祖父母から受け取った遺産の額とは関係なく徴収されることになるだろう。

約1000兆円の政府の債務と高齢者の金融資産は、そう遠くない将来、現在の若年世代の中で、重い税負担を親や祖父母から受け取った遺産と相殺できる（またはお釣りがくる）者と、親や祖父母から遺産を受け取れず重い税負担をそのまま被らなければならない者との「世代内格差」が生まれる日本の姿を予見しているだろう。